

## 研究テーマ：高齢者の服薬簡素化に対する取り組み

作成日：令和7年7月17日

研究担当者：薬剤師 水尻 典子

：薬剤師 田中さおり

監修：苑長（医師） 前川 剛志

通常の臨床研究では、研究対象者にその内容を文書や口頭で説明し、文書で同意を得て実施します。一方、国が定めた指針によれば、研究対象者への新たな侵襲や介入がほとんどない場合には、対象者（入所者）ひとり一人から直接同意を得る必要はありません。但し、研究の目的やその実施に関する情報を公開し、対象者に研究への参加を拒否する機会を保障することが求められており、このような手法を「オプトアウト」と言います。

そこで、この臨床研究への協力を希望されない場合には、上記の研究担当者までお知らせ下されれば、その該当者を除外致します。

### はじめに

複数の疾患を持つ高齢者は処方薬が多い上に、認知・運動機能の低下、特に咽頭・喉頭機能の低下（薬を飲み込みにくい）から服薬の介助を必要とする場合が多く、看護師、介護士による服薬介助時間が相当増加しています。本研究で、薬効を考慮した処方として服薬回数を減らし、服薬介助時間の短縮を図ることができれば、その時間を入所者の各種ケアの充実に回します。また、副次的には服薬に関連するリスクの低減や薬剤師の調剤業務の軽減を図れると予測しています。

### 使用する情報

対象入所者 50 名以内の同意・協力を得て、処方変更前後の調剤・監査・配薬カートへのセット、宇部幸楽苑における服薬の準備、服薬介助にかかった時間、服薬に関連するリスクの件数、薬剤費を調査・検討します。

これらの情報の扱いはプライバシー保護法に則って細心の注意を払います。即ち、入所者の氏名は匿名化し、個人が特定できる情報は一切使用しません。

### 研究計画及び成果の発表

研究計画：薬効を考慮した処方変更前後 7 日間の薬剤科における調剤、監査、配薬カートへのセット時間、宇部幸楽苑における服薬の準備と服薬介助にかかった時間、および、服薬に関連するリスク、薬剤費などを統計処理して評価します。この薬効を考慮した処方変更による服薬回数の減少、服薬介助時間の短縮、服薬に関連するリスクの低減、薬剤師の調剤業務の負担軽減などが期待されていますので、有意義な結果を得ることができれば、その成果は医療・介護等の学術集会で発表する予定です。尚、発表に際しては個人が特定できる情報は一切使用しません。

### 研究成果

この臨床研究により、服薬介助の負担軽減、服薬関連リスクの低減、薬剤師の調剤業務の負担軽減、薬剤費の適正化などが期待されています。

### ご質問等

この臨床研究にご質問がある場合や研究対象者となることを拒否される場合には、宇部リハビリテーション病院薬剤科の水尻典子、田中さおり（研究担当者）にご連絡下さい。ご質問に対応した上で、必要に応じて研究対象者から除外いたします。その場合でも、診療・介護・施設サービスにおいて、当該者に不利益が生じることはありません。研究対象者またはその家族のご希望があれば、個人情報保護や研究の独創性確保に支障がない範囲で、この臨床研究の資料等を閲覧することができますのでお申し出ください。